

# JUS D.I.を用いた医薬品添付文書更新情報の収集・提供業務について ～アンケート調査～

○細川理博<sup>1)</sup>、中村久美<sup>1)</sup>、鬼窪利英<sup>1)</sup>

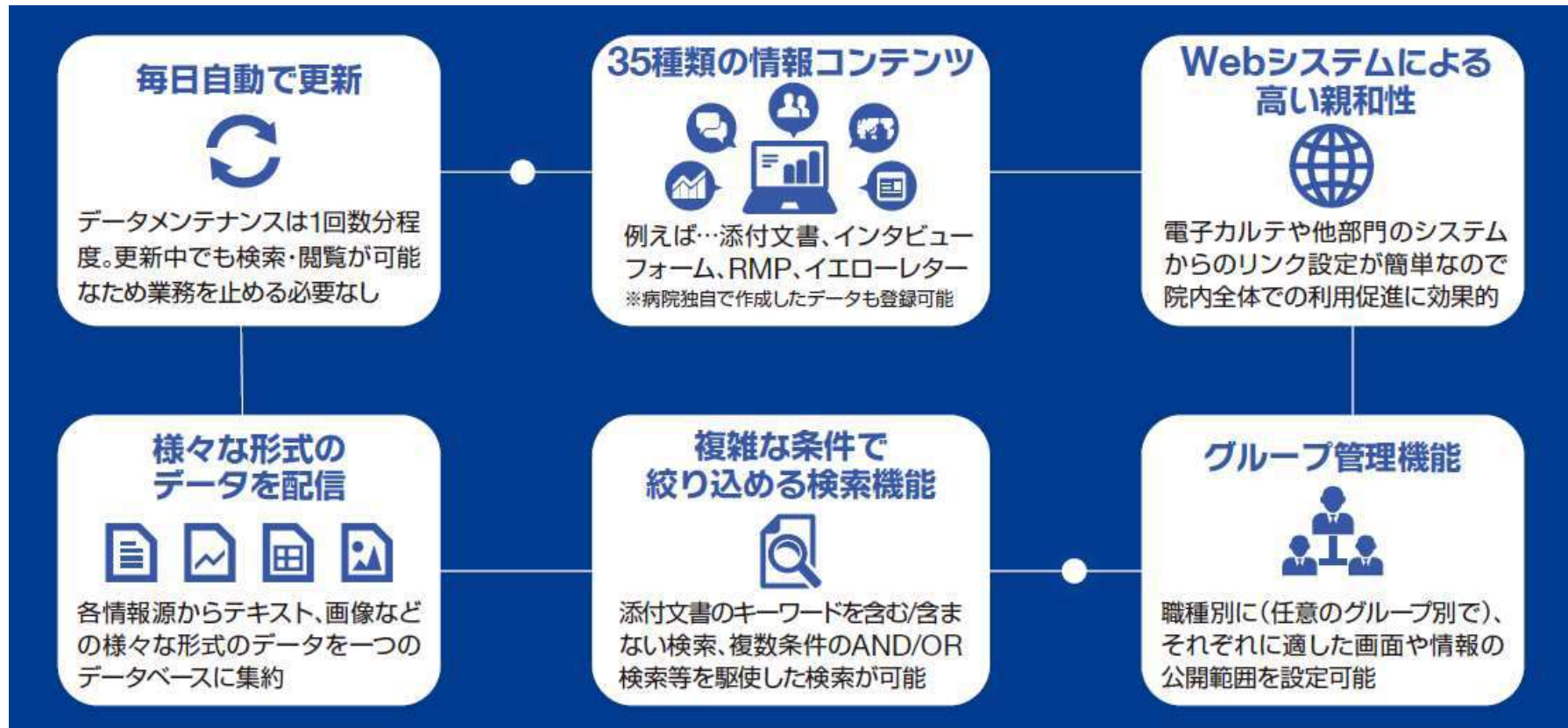
1)社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 薬剤センター

# 背景

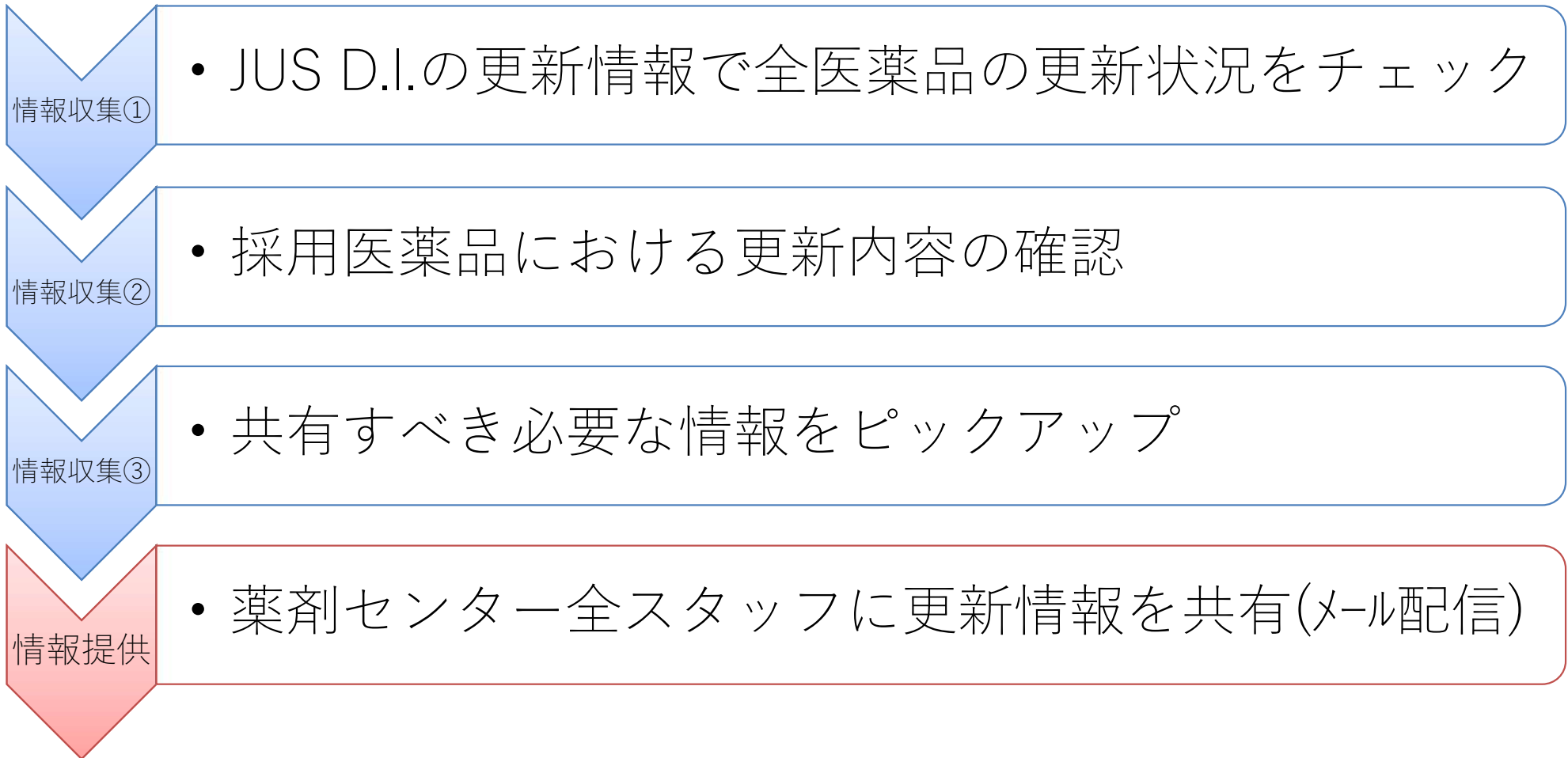
- 医薬品添付文書は医薬品適正使用において欠かせない情報源である。また、上市後頻回に更新されるため、最新情報を効率的に収集する必要がある。
- 個人差のない質の高い医療サービス提供に向けて、日本ユースウェアシステム株式会社が提供している医薬品情報一元管理システム「JUS D.I.」を活用した医薬品添付文書更新情報の収集・提供業務の取り組み内容と、当取り組みにおけるアンケート調査を実施したため報告する。

# JUS D.I.について

- JUS D.I.はDI業務を効率化し、医療の安全性と質を高める医薬品情報一元管理システムです。当院は2008年度より導入。



# 医薬品添付文書更新情報の収集・提供業務の流れ



# 情報収集の一例

JUS D.I. 販売名、一般名、GTINで検索 最終更新日：2023/08/19

お知らせ Q&A 更新情報 INDEX検索 詳細検索 全文検索 持参薬管理/薬剤鑑別 コード検索 メーカーお知らせ検索

2023/07/21 (金)

探	外	科限	添	医	改	販売名 ↓
改訂	探		添	医	改	アトルバスタチン錠10mg「トーワ」
改訂	探		添	医	改	アトルバスタチン錠5mg「トーワ」

添付文書改訂 発表日：2023/07 原文

## アトルバスタチン錠10mg「トーワ」

<薬生安通知7月20日付>

特定の背景を有する患者に関する注意：追加)重症筋無力症又はその既往歴のある患者  
[重症筋無力症(眼筋型、全身型)が悪化又は再発することがある]

重大な副作用：追加)重症筋無力症

<自主改訂>

併用注意：追加)ニルマトレルビル・リトナビル、エンシトレルビル フマル酸

毎日自動更新。  
添付文書が改訂された医薬品の最新リストが掲載される。

ワンクリックで、  
改訂項目・内容をすぐに見  
覧する事が出来る。

局方品 後発品 HMG-CoA 還元酵素阻害剤

アトルバスタチン錠10mg「トーワ」 【内】 一般名: アトルバスタチンカルシウム水和物

添 医 改 添付文書 検索 先発品を探す インタビューフォーム 患

メーカーお知らせ文書

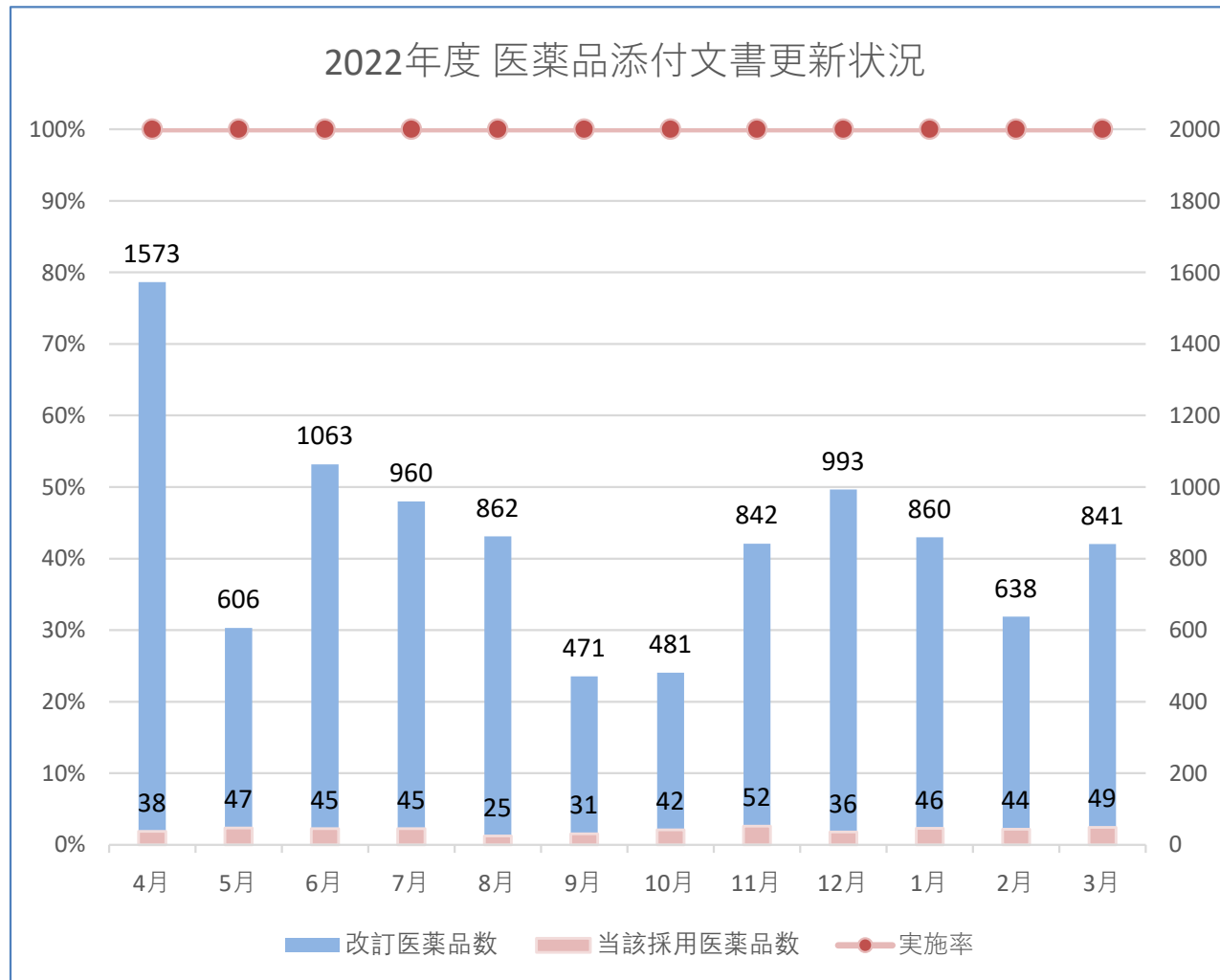
重篤副作用疾患別対応マニュアル

2023年 7月改訂 (第1版)	
特定の背景を有する患者に関する注意	<b>糖尿病の患者</b> 糖尿病を悪化させることがある。
合併症・既往歴等のある患者	<b>横紋筋融解症があらわれやすいとの報告がある以下の患者</b> 甲状腺機能低下症の患者 遺伝性の筋疾患（筋ジストロフィー等）又はその家族歴のある患者 薬剤性の筋障害の既往歴のある患者 アルコール中毒の患者 [11.1.1参照]
	<b>重症筋無力症又はその既往歴のある患者</b> *重症筋無力症（眼筋型、全身型）が悪化又は再発することがある。 [11.1.9参照]

製薬メーカーからのお知らせ文書もリンクしているため、改訂内容の詳細や根拠情報もすぐに確認できる。原文も閲覧可。

文言の記載整備等、軽微な修正も含まれるため、共有すべき必要な情報をピックアップし情報共有を行う。

# 医薬品添付文書更新品目数



添付文書更新医薬品（全体）：10,190品目/年  
 当院採用医薬品：500品目/年

※実施率：  
 添付文書が更新された医薬品（全  
 体）における当該採用医薬品の確  
 認割合

# アンケート内容・結果

添付文書更新情報提供業務におけるアンケート

2021年11月より、JUSD.Iを活用した採用医薬品に関する添付文書更新情報の提供業務に取り組んで来ました。  
業務改善に向けたアンケートにご協力下さい。

【職業】 薬剤師 事務      【勤続年数】      年目

添付文書更新情報（メール情報）の確認について  
情報を見たことがある 情報を見たことがない

情報の確認頻度  
毎回 ほぼ毎回 ときどき 殆ど見ない その他（      ）

情報の活用状況  
大変ためになる ためになる 殆どためにならない ためにならない

活用例、ためになる理由 など

ためにならない、情報を見ない理由 など

各自の添付文書更新情報の収集方法について教えてください。（頻度、方法など）

当取り組み前

当取り組み後

ご協力、ありがとうございました。  
添付文書更新情報提供業務に対するご意見等ありましたらお聞かせ下さい。

## 【対象】

薬剤センタースタッフ（N=35）

## 【内容】

- ①情報確認の有無
- ②情報確認の頻度
- ③情報の活用状況

## 【実施期間】

2023/3/29～2023/4/7

## 【回答率】

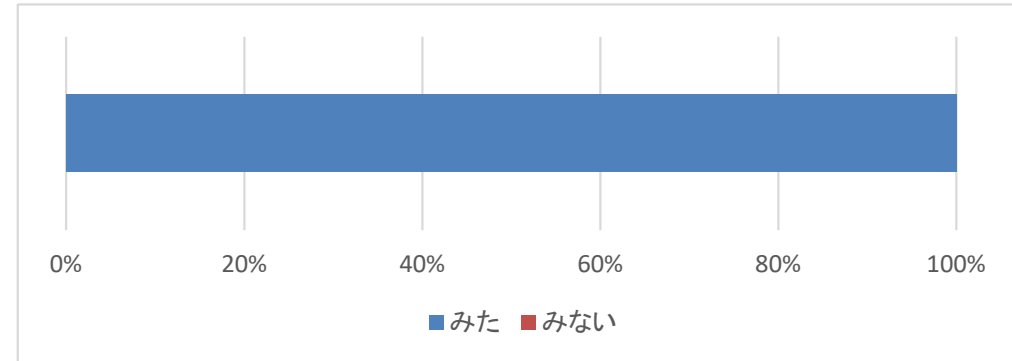
65.7% [23/35]

## 【勤続年数別 回答者数】

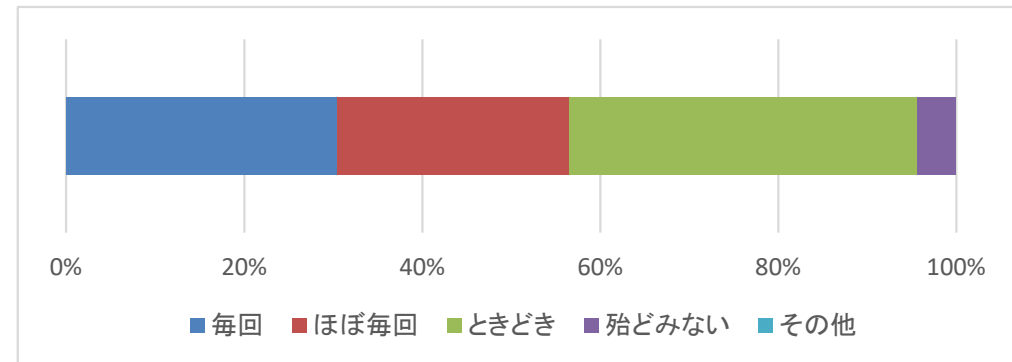
- 5年未満           : 6名
- 5～10年未満     : 8名
- 10年以上         : 7名
- 無記名           : 2名

# アンケート結果（全体）

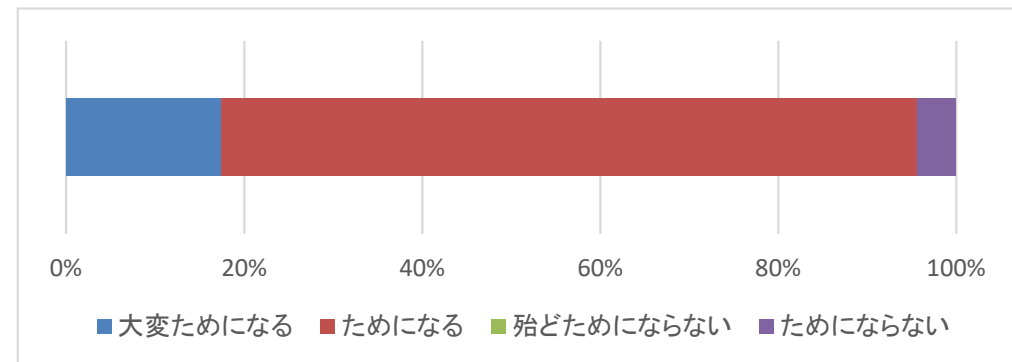
①添付文書更新情報  
確認の有無（n=23）



②情報確認の頻度  
(n=23)



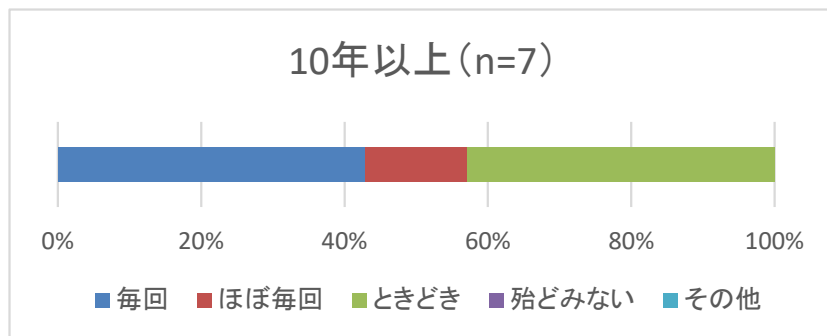
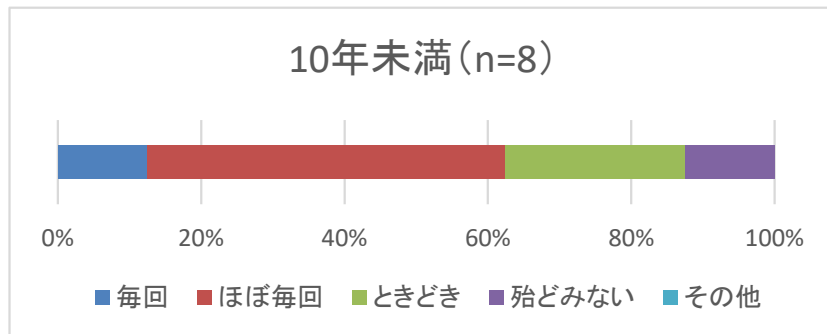
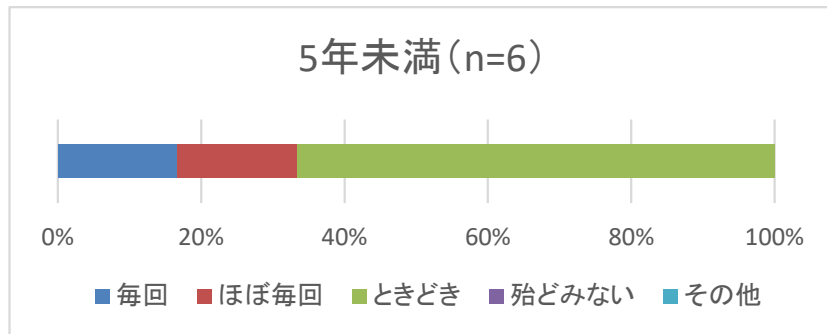
③情報の活用状況  
(n=23)



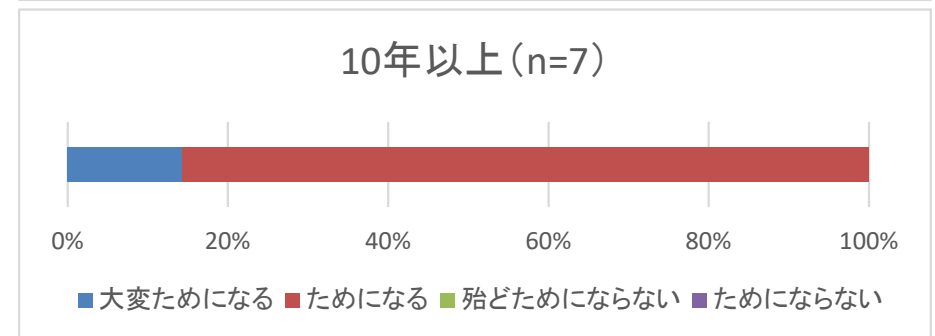
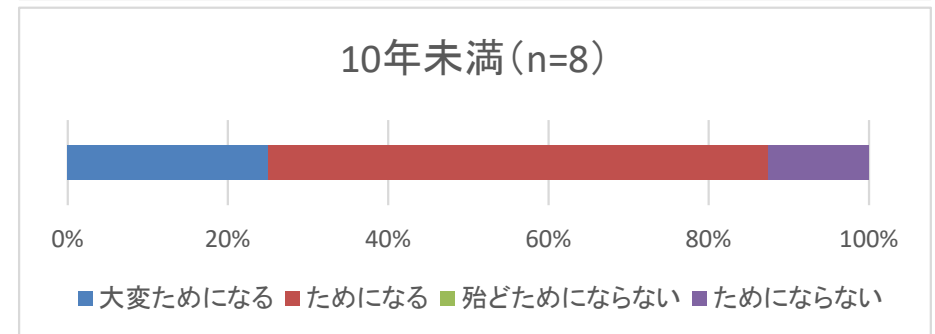
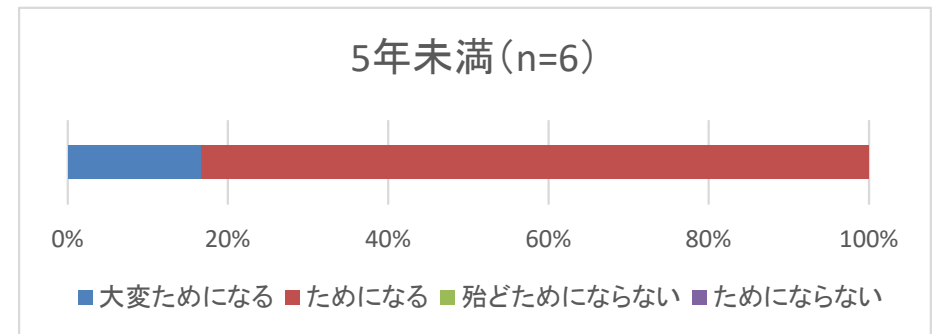


# アンケート結果（勤続年数別）

## ②情報確認の頻度



## ③情報の活用状況



# アンケート結果（自由記述回答）

	事例・理由
勤続年数	活用例(情報を見るor見ない理由)
5年未満	気になった薬（禁忌の追加や新たな相互作用など）の実際の添付文書を確認するきっかけとなる
	新情報に早くふれることができる
	フォシーガの心不全適応変更点が分かったこと
	常に最新の情報を知ることによって疑義照会の役に立つ 途中から改訂箇所と内容までメールに記載して頂き、添付文書のアップデートに活用しやすくなった
10年未満	添付文書更新情報を自ら進んで得ることは今まであまりしてこなかったため、タイムリーに知る事ができとても助かっています。
	院内採用薬や自分がよく関わる薬の情報の更新について気付けるので助かります
	採用薬の更新情報に気付くことができる。適応や副作用など更新情報以外にも目を通すことができるので再確認が出来る
	妊婦に対しての内容を更新など自分の病棟で必要となる情報を得られる
	禁忌追加等知っておいた方が良い情報の確認ができる
	禁忌追加や適応追加などを確認する
	非採用薬についてはあまり見ないと時もあります 当院採用でない薬は見なくて良いと思ってしまう。またリンク等がないので自分でJUSDIから探さないといけないのが不便 ただ単純に変更されたことだけのメールであれば、現在であればもっと他の方法がありそうな気がする。 DIの業務として行うのであればそこに変更内容についてのコメントなどを入れてくれると、みてみようという気になる。
10年以上	自分ではあまり情報を取得していないため、自分が特に触れる機会のある薬についてはとても役に立ちます
	処方監査において添付文書の記載内容の変更をタイムリーに知ることができるのは助かります。
	専門分野以外の情報もタイムリーに分かりためになりました
	タイムリーに更新情報を得ることが出来るため
	特に相互作用や重要事項の追記が参考になると思います。見れば確認や勉強になることも多いかと思います。
	見落としした添付文書に気付ける
	自分からは情報をとりにいく頻度が少ないので、必要な情報があると便利です
	ごくまれに自分で情報を逃しているときにはためになる
	他で情報を得ているが見逃していることもあるため 過去のメールを見返したいときにどのメールが該当するか薬剤が分からず見ないこともありました この件に限った話ではありませんが、後で見ようと思っていると大抵見るのを忘れてしまいます。若い頃の方が、もっと見て調べていたような気がします。 最近では自分の業務を優先してしまう事も多く、なかなか閲覧していないような気がします。

# アンケート結果（自由記述回答）

	情報収集方法
勤続年数	取り組み前
5年未満	特に気にしていなかった
	特になし
	変わっていることに無頓着だった
	PMDAや日経DIなどからの情報収集せず
10年未満	調剤業務時などにJUS参照
	2-3ヵ月に1回くらいPMDAのHPを見る。あとはケアネットなどの配信される情報を見る程度
	添付文書をひらいた時に知る。薬剤情報がニュースになったとき
	登録サイトからの情報、知りたい薬の添付文書を開いたときにたまたま知る
	必要時、その薬剤に関わる時
10年以上	特に意識的に収集していなかったです
	メーカーからの案内、Twitter、登録先の情報サイトなど
	メーカーからの案内や勉強会で収集しました
	メーカーさんからのお知らせ、情報サイトから
	自分の持っている参考書、JUS.DIからの情報収集です
	メーカーからののお知らせ（お知らせが来たとき）、ネット情報（週1回）

	情報収集方法
勤続年数	取り組み後
5年未満	メール情報+余裕があれば添付文書
	気になったものだけ確認
	メールにて確認
	全ての改訂ではないが何が更新されているのか確認するようになった
	メールを流し読み、気になること・業務中に時間があれば、メモして添付文書、日経DIにて詳細を確認しています。
10年未満	上記に加え、メールにて確認
	メールが来たらJUS.DIで変更点をチェックしています
	届いたメールを確認
	上記の通りです。（メールを見て必要な情報を集める）
	メールに依存
	メールが来たときに確認
	変わりなし
10年以上	変更なし
	メール情報、Twitter、情報サイト
	メール配信で気になる内容があれば添付文書を確認していいました
	メーカーさんからののお知らせ、情報サイトからの入手は継続、メールをもらった都度確認
	上記と特に変わりありません
	添付文書更新情報、メーカーからののお知らせ、ネット情報

# アンケート結果（自由記述回答）

## その他、ご意見など

いつもありがとうございます

お忙しい中、情報提供していただきありがとうございます。

以前何人かの人にJUS.DIで更新内容をどう見たらよいかと相談されたことがあります。添付文書のどこが変わっているか分からないようです。

JUS.DIの見方も周知できるとよいかもかもしれません。

お恥ずかしい話ですが、こんなに添付文書が更新されているとは知りませんでした。ありがとうございます。

添付文書更新について気付ける良い取り組みと思います。

継続をお願いします

毎回のメール配信大変ではないですか？月1回毎リスト化してまとめて配信しても良いかなと思いました。

難しいとは思いますが、変更前後の変更点が一目で分かるとなお理解が深まると思います。

特に重要と思われるものをピックアップしていただけると有り難いです。よろしくお願い致します。

学会や論文に使用することがありますという記載がないことから、そういう風には使えないと思うのであくまで業務の見直しというスタンスと捉えました

# 考察

- 医薬品添付文書は医薬品適正使用において欠かせない情報源だが、更新頻度が高く最新情報を収集するためには労力がかかる。また、薬剤師の経験年数や就労形態は個々で異なるため、ワークライフバランスを考慮した働き方の多様化が広まっているなか、医薬品情報の収集に掛けれる時間は個人差がある。
- 毎日情報が更新されるJUS D.I.を活用することで効率的に医薬品添付文書更新情報の確認ができる。また、医薬品情報担当薬剤師が更新内容を確認し、必要な情報を全スタッフに共有することで、病院単位での薬剤師の知識向上に繋がり、個人差のない質の高い医療サービス提供に寄与できると考える。
- アンケート結果より、病棟薬剤業務をメインで行っている5~10年未満の薬剤師の確認頻度が一番高いことから、病棟薬剤業務を行うにあたり、最新の医薬品情報を収集することの重要性が考察できる。

日本病院薬剤師会関東ブロック  
第53回学術大会

利益相反の開示

私は今回の演題に関連して、  
開示すべき利益相反はありません。